

平成31年3月31日

平成30年度 学校経営報告

東京都立府中工業高等学校長
鈴木 信也

今年度の取組と自己評価

(1) 教育活動の目標と方策

①学習指導（自分で「考えさせる」指導の推進）

- ・生徒の進路希望に合わせ、各学年とも生徒の思考・判断・表現能力の向上を図った。
- ・工業高校の特色である実験・実習を重視し、体験的な学習から実践的な技術・技能に興味・関心を高めさせ、高度な資格取得に挑戦する意欲と能力の向上を図った。
- ・教員による相互授業見学を推進し、そこで得られた改善点を生徒に還元することで、教員相互の授業力の向上を図った。
- ・生徒による授業評価アンケートを活用し授業内容や指導方法の改善に活用させた。
- ・授業環境を整え、習熟度別・少人数授業・補習等を活用し、生徒一人ひとりに応じた指導を充実させた。

＊結果として「考えさせる授業」であるという肯定的な回答が学校全体で88%となり、生徒自身が将来に向けてより良く・逞しく生きるための自己判断能力を醸成することができた。ただし、教員には今の生徒に応じた指導内容・方法に、一層の工夫をさせなければならないことが課題である。

②進路指導（希望進路実現100%）

- ・望ましい勤労観や職業観を育成するために、外部人材を活用しキャリア教育の充実を図った。また、三者面談の早期実施により保護者との連携を深めることができた。
- ・就職指導や進学指導の一層の推進を図るために、特に進路講話や先輩の話を聞く会に力点を置き、進路決定に向けての具体的な意識付けを図った。
- ・商工会議所と連携をして地域企業から支援体制を得る組織を立ち上げ、本校在籍生徒だけでなく卒業生に対しても広く就職相談やキャリア教育の推進を図った。
- ・2学年全生徒によるインターンシップや各科による企業見学等を実施し、社会人意識の向上を図った。

＊結果として希望進路実現100%。

「サポーター企業」という新規事業を立ち上げた結果、市内53社の企業との連携が具体化し、卒業生を含めた生徒全員の将来を見守り、進路相談に対応して頂ける組織ができた。今後は、意図的に機会を作ることでサポーター企業と生徒の交流を深めることが課題である。

③生活指導（規律ある学校生活の向上「形から入りて心に至る」）

- ・「時間を守る」「約束を守る」「挨拶をする」を意識させ、自立した社会人としての基本的な生活習慣の確立を図るために、特に、遅刻指導の徹底を継続した。
- ・TPOに応じた言動、服装・身だしなみ指導を図り、規律ある学校生活を展開させた。
- ・避難訓練や防災教育等を通して、生徒自らが自己の安全を確保できるよう指導するとともに、地域社会の一員としての共助の心を育成した。
- ・いじめの未然防止、早期発見、早期対応に取り組むため、学校いじめ対策委員会の報告のもと、学校全体で情報共有し、いじめの総合対策に基づいた対応を図った。

＊結果として、遅刻者は1日当たり学校全体で5人という減少傾向となり、特別指導も3件のみ、中途退学者は2人、地域からは生徒たちが期待される存在になった。いじめ未然防止も徹底できた。今後は、SNSに関わる指導の徹底が課題である。

④特別活動・部活動（部活動活性化と加入者の増加）

- ・パワーアップハイスクール指定校として、生徒の意識改革として2名の外部講師を招聘した。
- ・生活指導部、学年及び部活動顧問が連携して部活動加入を促進し、各部活動の活性化を図れた。
- ・東京都オリンピック・パラリンピック教育として、茶道等の日本の伝統文化の理解教育を推進した。

＊結果として、体力テストでは都平均を上回る種目が0から2になった。今後、8項目すべてで上回るよう、無理のない体力向上策が課題である。部活動は80%以上の加入率が維持でき、全国大会や関東大会に進出している。茶道部は本校生徒や来校者に日本文化を正しく発信できた。

⑤健康づくり・相談体制（健康生活への意識の向上）

- ・スクールカウンセラーの積極的な活用は生徒・保護者に周知でき、多くの相談につなげることができた。
- ・自他の生命の大切さを実感させる講演会を実施し、健康生活への意識の向上を図った。

＊結果として、生命尊重の意識は高まっているが、相談行動が身近である認識も高める必要がある。

⑥募集・広報活動の積極的な展開（HP等学校情報発信の強化と地域連携）

- ・府中工業力の「見える化」を推進するため、校門横に掲示板を設置し地域に情報提供した。
- ・ホームページの更新を170回以上行い、本校の教育活動をタイムリーに発信した。
- ・近隣中学校と連携を図り、中学生200人が本校見学に来校し、工業高校理解を深めた。

＊結果として、中学生やその保護者、地域の方々の本校に対する興味・関心および理解を得た。そして、募集倍率1.33倍につながる一要因になった。今後も「見える化」の一層の推進が必要である。

⑦学校経営について（連携と育成、体制の確立）

- ・近隣小学校・中学校・特別支援学校等との連携を推進し、生徒の能力育成を図った。
- ・東京オリンピック・パラリンピック大会を見据えた国際理解教育・国際交流事業を推進した。
- ・生徒や保護者アンケートに基づいた「期待に応える学校経営」を浸透させていく。
- ・キャリア教育を推進するため、むさし府中商工会議所との連携を図る。
- ・管理職が率先してライフ・ワーク・バランスを示し、全教職員の働き方改革を推進する。

＊結果として、小学生見守り活動やパラリンピック種目のボッチャ制作等、生徒の自己有用感や自己肯定感の向上につながった。働き方改革も浸透している。今後もアンケートを適宜実施し、今後の工業高校に期待されている思いを把握し対応することが課題である。

⑧ものづくり人材育成（資格取得推進と向上）

- ・「卒業までに一人5つ以上の資格取得指導の取組み」を具体化させた。
- ・資格取得推進のために授業展開を工夫し、放課後や長期休業中の補習・補講を充実させた。

＊結果として、入学から卒業までの「資格取得ロードマップ」を各工業科が連携して作成し、学校に一体感ある取組みとなった。各普通科も呼応して資格取得に取組んだ。今後は、学校側からだけでなく、生徒にも自身のロードマップを作成させ、将来を意識した学校生活を送らせることが必要である。

次年度以降の課題と対応策

①学習指導の充実

- ・生徒に「考えさせる」授業展開を推進する。
- ・「卒業までに5つの資格取得」を組織的に行い、多様な分野における技能・技術の定着を図る。
- ・教員の授業力向上のため相互授業見学を推進し、改善点を生徒に還元する。

②進路の充実

- ・「サポーター企業」と連携し、好ましい社会人意識を高めさせ適切な進路決定まで指導する。
- ・進路説明会、個人、三者面談の早期実施により保護者との連携を進め、進路相談をより充実させる。
- ・インターンシップ事業を進路指導部に移す。組織的対応を強化しサポート企業と連携させる。

③生徒指導の充実

- ・「時間を守る」「約束を守る」「挨拶をする」の社会人意識うち「約束を守る」を重点項目にする。
- ・体罰、暴言、いじめの未然防止を全教職員で確認し、発生件数を０件とする。
- ・SNSによる不適切使用の未然防止のための指導を徹底する。

4 平成30年度の数値目標の実績

数値目標	平成29年度	平成30年度 目標	平成30年度 実績
① 就職内定率	100%	100%	100%
② 資格取得者数 ア 旋盤技能検定3級 イ 旋盤技術検定2級 ウ 第2種電気工事士 エ 第1種電気工事士 オ IT パスポート カ 工事担任者（DD3種）	ア 7名 イ 1名 ウ 26名 エ 6名 オ 5名 カ 20名	すべてにおいて +3名以上	ア 6名 イ 1名 ウ 28名 エ 9名 オ 3名 カ 18名
③ 国家資格等 5つ以上 資格獲得者数（卒業時）（新規）		50名	39名
④ 体力テスト数値向上（都平均以上の種目数向上）（新規）		8種目中5種目	8種目中2種目
⑤ 部活動加入率	81%	82%	80%
⑥ ホームページ更新数	145回	150回	180回
⑦ 特別指導件数	3件	2件以下	
⑧ 図書館貸出冊数	1140冊	1200冊	1200冊
⑨ 学校説明会参加人数 （中学生・保護者合計）	500名	550名	620名
⑩ 入学者選抜応募倍率 ア 推薦入学 イ 学力検査	ア 1.88倍 イ 1.08倍	ア 2.00倍 イ 1.15倍	ア 2.29倍 イ 1.33倍
⑪ 退学者の減少（全生徒に対する割合）	1.2%	1.2%を維持	0.04%
⑫ 学校満足度（肯定的回答） ア 生徒 イ 保護者	ア 78% イ 93%	ア 85% イ 95%	ア 82% イ 90%